

第十卷に題す

回顧すれば本誌創刊號——第一卷上冊を世に送つたのは大正十五年七月のことである。爾來、歳とともに卷を重ねること正に十、本誌をもつてその第十卷を結び得ることとなつた。不斷悠久なるべき學問研究の世界より見れば微々たる本誌の十卷完成のごとき敢へて言ふに足りないかも知れぬ。だが十年の歳月を費して、數多き姉妹雜誌の間に伍しながら今現に見るが如き形にまで成長を遂げ、日本經濟學界の一角にさゝやかなれども不拔の地歩を築き得るに至つたことは、おもふて聊かの感慨を禁じ得ないところである。

編輯者はこゝに先づ、十年の昔に想ひをかへして、よく學界の大勢の赴くところを明察しながら、本誌の創刊に心をいたされたる前小樽高等商業學校長・名譽教授伴房次郎先生の徳を偲びたい。次いで、過去十年間、——當初は三千部、今は毎號四千部といふ大規模なる本誌の刊行に、惜しみなく財を投じて只管にその成長を愛護せられたる二千八百の小樽高等商業學校同窓會々員諸氏と、今現に學窓にある七百の校友會々員諸君との、あつき支援に滿腔の感謝を捧げたい。かの明察と、この支援なかりせば、むしろ本誌は今日の生ひ立ちを見るを得なかつたであらう。おもへば『商學討究』は、他の何處にも全き類型を見ざる、本學園の内と外との、溢るゝごとき血の交流のうへに躍動してゐたのである。

かくて吾々は、その成すべき共同事業の一つを華かに成し遂げ得たる思ひもて、こゝに記念す

べき第十卷を結び了へた。そして今より、新たななる轉機に立ち向はうとしてゐる。——年三回の定期刊行は年二回に、但し各號の紙數は現在よりも幾分の増加に、變ずるであらう。同窓會・校友會々員諸氏への洩れなき配本は本號をもつて一と先づ打切りとし、自今豫約者以外には頒たれぬであらう。次の第十一卷は今秋十月刊行豫定の本校創立二十五周年記念論文集をもつてこれに充て、次年度内は他に在來の形に於ける本誌の刊行を停止するであらう。

讀者諸氏も既によく知らるゝが如く、本校に於ては學問研究上の一大飛躍を數年の後に期すべく、今、菅米地英俊校長の遠大なるプランに據りながら、職員・同窓會・校友會々員諸氏打つて一丸となつて、學術研究資金の充實に邁進してゐる。此プランの實現の日こそ來りなば、本誌は昔日にもました不動の財政的基礎を惠まるゝ筈である。本誌が其日まで頒布範圍の若干の縮少を餘儀なくせしめらるゝのは、校長並びに編輯委員が深く遺憾とする所ではある。だが校長の英斷と同窓會の重ねての支援によつて、來るべき數年のうちにも、本誌は從來と殆んど全く變らざる形態に於て、純粹なる學術研究機關雜誌としての力強い存在を主張し得る筈である。今後の編輯者が誰人たるべきかは今編輯委員の知り得る所ではないが、その何人も最善を盡して校長並びに同窓會の厚意に酬いんことを期すべきは極めて明瞭である。

重ねて同窓會各位の渝らざる情誼を謝し、聊か所懐を附記して第十卷を結ぶの辭とする。

昭和十一年二月

商學討究編輯委員